

2007年度 中間決算説明資料

—2007年10月30日—

京王電鉄株式会社

I . 2007年度中間期の業績

【I-I. 連結決算】



1. 連結損益計算書

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減額	増減率
連結営業収益	208,498	208,505	6	0.0%
連結営業利益	24,152	23,647	△ 505	△ 2.1
連結経常利益	22,265	22,401	135	0.6
連結中間純利益	13,099	13,752	653	5.0
連結E B I T D A	38,704	38,044	△ 660	△ 1.7

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
(営業収益)	+ 12億円	+ 8億円	△ 19億円	△ 1億円	+ 0億円
(営業利益)	+ 5億円	+ 3億円	△ 8億円	△ 1億円	△ 0億円

(注) 1. 連結E B I T D Aは、連結営業利益 + 減価償却費により算出している。
2. セグメント別の営業収益、営業利益の増減額には、セグメント間取引を含む。

3

営業収益は、ほぼ前年同期並みの2,085億円、営業利益は、前年同期比2.1%減の236億円となりました。

運輸業、流通業が増収増益となったのに対して、不動産業、レジャー・サービス業は減収減益となりました。

経常利益は、社債の償還により支払利息が減少したことなどにより0.6%増の224億円、中間純利益は、減損損失の減少による特別損益の改善もあり5.0%増の137億円となりました。

連結E B I T D Aは営業利益の減少により1.7%減の380億円となりました。

主な業績の変動要因

<運輸業—増収増益>

- (鉄道事業) 輸送人員の増

<流通業—増収増益>

- (ストア業、書籍販売業) 新店効果

<不動産業—減収減益>

- (不動産販売業) 前年同期に大型物件の販売収入計上

<レジャー・サービス業—減収減益>

- (旅行業) 団体旅行の減

<その他—増収減益>

事業セグメント別の主な業績の変動要因です。

【I-I. 連結決算】



2. 連結貸借対照表

〈単位:百万円〉

	2007/3	2007/9	増減額
総 資 産	648,161	621,791	△ 26,369
負 債	401,531	372,918	△ 28,612
純 資 産	246,629	248,872	2,243
負債及び純資産	648,161	621,791	△ 26,369

(総資産) 投資有価証券の時価評価による減

(負債) 社債の償還による減

(純資産) 中間純利益の計上による利益剰余金の増

5

総資産は、投資有価証券の時価評価による減などにより、前期末と比べて263億円減少し、6,217億円となりました。

負債は、社債の償還による減などにより286億円減少し、3,729億円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金の減がありましたが、中間純利益の計上による利益剰余金の増により22億円増加し、2,488億円となりました。

3. 連結キャッシュ・フロー計算書

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,541	33,624	6,082
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,152	△ 20,934	7,217
財務活動によるキャッシュ・フロー	17,009	△ 20,103	△ 37,113
現金及び現金同等物の中間期末残高	55,203	36,105	—
有利子負債の中間期末残高	233,972	204,636	—

(営業活動CF)	分譲マンションの販売代金回収	+ 29億円
	法人税等の支払額の減少	+ 19億円
(投資活動CF)	有形固定資産の取得による支出	△ 74億円
	前年同期：有価証券（CP）の取得による支出	+ 99億円
(財務活動CF)	社債の償還	△ 100億円
	前年同期：社債の発行	△ 253億円

(注) 有利子負債は、借入金+社債+鉄道・運輸機構未払金により算出している。

6

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは、前期に販売した定期借地権分譲マンション「トラスティア北野」の代金回収や、法人税等の支払額の減少などにより60億円増加し、336億円となりました。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加しましたが、前年同期に運用目的での商業ペーパーの取得があり、全体で72億円減少し、209億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、第19回無担保社債の償還に加え、前年同期に第23回、第24回無担保割引社債の発行があったことなどから差引き371億円減少し、201億円の資金流出となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は361億円、また、有利子負債の当中間期末残高は、前期末に対して178億円減少し、2,046億円となりました。

【Ⅰ－Ⅱ. セグメント別の概況】

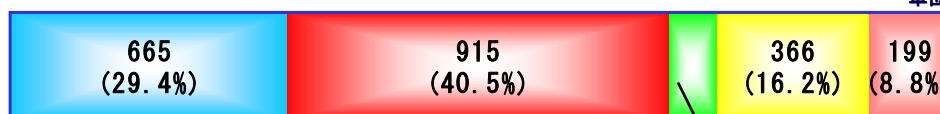


1. 事業セグメントの構成状況 (2007年9月末)

< 連結会社 > 37社 (京王電鉄は複数のセグメントに重複して含まれている)

運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
京王電鉄 京王電鉄バス 京王自動車 他 7社	京王百貨店 京王ストア 京王書籍販売 他 6社	京王電鉄 京王不動産 京王地下駐車場	京王プラザホテル 京王観光 京王エージェンシー 他 4社	京王設備サービス 京王重機整備 京王建設 他 8社

< 営業収益 > 2007/9 2,085億円 単位:億円



< 営業利益 > 2007/9 236億円



(注) セグメントの数値は、セグメント間取引を含む金額、構成比率である。

連結会社数は2007年9月末時点で37社です。前期末に比べて1社減少しておりますが、連結業績に大きな影響はございません。

営業収益は、百貨店業をはじめとする流通業の割合が高くなっておりますが、営業利益では、鉄道事業を主力とする運輸業の割合が高くなっております。いずれも、前年同期と比べて傾向に大きな変化はありません。

【I－II. セグメント別の概況】



2. 運輸業の実績

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減率
			%
鉄 道 事 業	40,669	41,705	2.5
バ ス 事 業	14,389	14,507	0.8
タ ク シ ー 業	7,250	7,242	△ 0.1
そ の 他	1,576	1,577	0.1
外部顧客に対する営業収益	63,886	65,033	1.8
セグメント間取引	1,476	1,531	-
営 業 収 益	65,363	66,564	1.8
営 業 利 益	12,255	12,782	4.3
減 価 償 却 費	8,728	8,538	△ 2.2
資 本 的 支 出	9,212	11,118	20.7

8

営業収益は、鉄道事業、バス事業が増収となったことにより、前年同期比1.8%増の665億円となりました。

営業利益は4.3%増の127億円となりました。

資本的支出は、安全性向上に係る工事等の進捗により、鉄道事業で増加しております。

【I - II. セグメント別の概況】



鉄道事業運輸成績

	2006/9	2007/9	増減	増減率
輸 送 人 員	千人	千人	千人	%
定 期	181,286	186,878	5,592	3.1
（ 通 勤 ）	133,261	137,727	4,466	3.4
（ 通 学 ）	48,025	49,151	1,126	2.3
定 期 外	127,537	133,817	6,280	4.9
合 計	308,823	320,695	11,872	3.8
旅 客 運 輸 収 入	百万円	百万円	百万円	%
定 期	16,794	17,208	414	2.5
（ 通 勤 ）	14,852	15,244	392	2.6
（ 通 学 ）	1,942	1,964	21	1.1
定 期 外	22,311	22,984	673	3.0
合 計	39,106	40,193	1,087	2.8

9

輸送人員は、定期が前年同期比3.1%増となりました。内訳は、通勤で3.4%増、通学で2.3%増となっています。

定期外は4.9%増、定期・定期外合計の輸送人員は3.8%増となりました。

【I-Ⅱ. セグメント別の概況】

鉄道輸送人員の分析



	対前年同期 増減率	主な増減の要因
	%	
定期	3.1	○ PASMO導入に伴う集計方法変更 (特殊要因) ○ 大規模マンションの建設の進捗
（通勤）	3.4	
（通学）	2.3	
定期外	4.9	
合計	3.8	

< ICカード利用率 >

	2007年4月	2007年9月
定期	41.9%	64.1%
定期外	38.7%	52.0%
合計	40.2%	57.6%

※ Suicaによる利用を含む

< 沿線における大規模マンション建設 >

	物件数/戸数	主な最寄駅
2006年度上期	4物件/1,100戸	千歳烏山
2006年度下期	10物件/2,200戸	京王多摩センター 聖蹟桜ヶ丘
2007年度上期	2物件/400戸	京王多摩センター

※ 入居戸数100戸以上の分譲マンション (当社調査による)

10

主な増加の要因は、特殊要因としての共通ICカード乗車券PASMOの導入に伴う集計方法の変更と、沿線における大規模マンションの建設の進捗があります。

PASMOの導入に伴う集計方法の変更では、前月から当月へ前倒し計上されることとなった部分による増加と、新たに輸送人員への計上が可能となった部分による見かけの増加があります。輸送人員合計で3.8%増のうち、これらの影響分は2.1%であり、実質的な輸送人員の増加率は1.7%となります。

輸送人員全体に対するICカード利用率は、Suicaによる利用も含めた数値です。導入後の2007年4月と直近の9月について比較しますと、合計で4月に40.2%であったものが9月は57.6%と、半数以上のお客様がICカードをご利用になっていることがわかります。

大規模マンションの建設の進捗について、参考として、沿線における入居戸数100戸以上のマンションの建設状況を記載いたしました。

【 I - II. セグメント別の概況】



3. 流通業の実績

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減率 %
百貨店業	52,879	52,592	△ 0.5
ストア業	19,707	20,150	2.2
書籍販売業	5,524	5,723	3.6
駅売店業	4,924	5,060	2.8
その他の	6,466	6,965	7.7
外部顧客に対する営業収益	89,502	90,491	1.1
セグメント間取引	1,180	1,033	-
営業収益	90,683	91,525	0.9
営業利益	3,057	3,427	12.1
減価償却費	1,805	1,855	2.8
資本的支出	2,082	1,078	△ 48.2

11

営業収益は0.9%増の915億円、営業利益は12.1%増の34億円となりました。

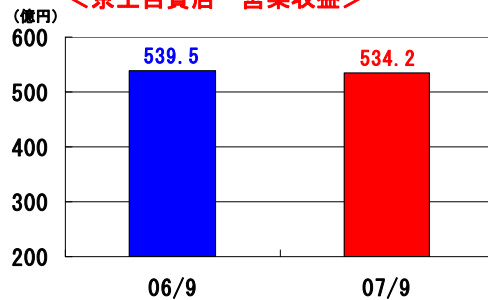
営業収益は、百貨店業で減収となりましたが、ストア業、書籍販売業で新店の通期稼働、新規オープン等により増収となりました。

【I-Ⅱ. セグメント別の概況】



京王百貨店・京王ストアの実績

<京王百貨店 営業収益>

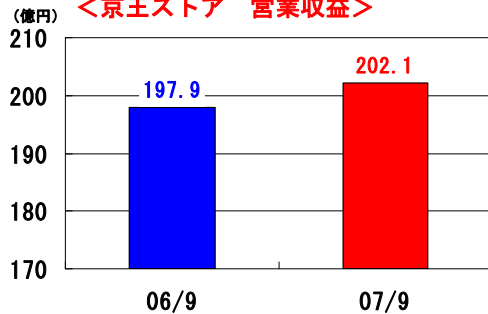


○営業収益(減収)：店頭売上が堅調
外商部門の減

新宿店の改装

- ・中地階食品フロア 2007年 4月
- ・6階家庭・文化用品フロア 2007年 9月

<京王ストア 営業収益>



○営業収益(増収)：新店効果

新規オープン

- ・稲城店 2006年 7月
- ・八幡山店 2006年10月
- ・高井戸店 2007年 3月

12

京王百貨店の営業収益は、新宿店における改装の効果などにより店頭売上が堅調でしたが、外商部門の売上減により減収となりました。

京王ストアの営業収益は、前期にオープンした稲城店、八幡山店、高井戸店が通期で業績に寄与したことなどにより増収となりました。

【 I - II . セグメント別の概況】



4. 不動産業の実績

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減率
			%
不動産賃貸業	7,596	8,267	8.8
不動産販売業	4,284	1,581	△ 63.1
その他の	632	690	9.3
外部顧客に対する営業収益	12,513	10,539	△ 15.8
セグメント間取引	977	981	-
営業収益	13,490	11,521	△ 14.6
営業利益	5,319	4,501	△ 15.4
減価償却費	1,996	2,030	1.7
資本的支出	1,202	3,660	204.5

13

営業収益は14.6%減の115億円、営業利益は15.4%減の45億円となりました。

営業収益は、不動産賃貸業で、商業施設「フレンテ明大前」、「フレンテ南大沢」などの新規物件の稼働により増収となりましたが、不動産販売業で、前年同期に賃貸ビル「恵比寿ネオナート」の売却による割賦販売収入の計上があったことなどにより減収となりました。

【I - II. セグメント別の概況】



5. レジャー・サービス業の実績

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減率
			%
ホ テ ル 業	17,980	17,957	△ 0.1
旅 行 業	10,429	10,234	△ 1.9
広 告 代 理 業	2,746	2,770	0.9
そ の 他	3,328	3,367	1.2
外部顧客に対する営業収益	34,484	34,330	△ 0.4
セグメント間取引	2,323	2,329	-
営 業 収 益	36,808	36,659	△ 0.4
営 業 利 益	2,741	2,551	△ 6.9
減 価 償 却 費	1,856	1,785	△ 3.8
資 本 的 支 出	511	1,439	181.5

14

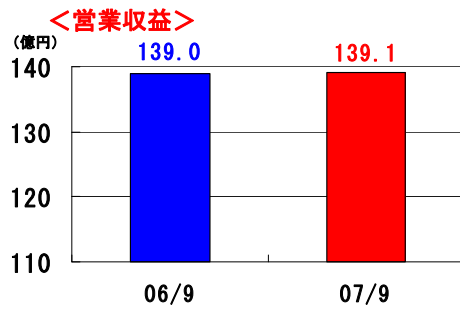
営業収益は0.4%減の366億円、営業利益は6.9%減の25億円となりました。

営業収益は、広告代理業で受注増により増収となりましたが、旅行業で団体旅行の減などにより減収となりました。

【 I - II. セグメント別の概況】



京王プラザホテルの実績



<新宿の営業実績>

○営業収益(増収) :
 <宿泊> 室単価の向上

○客室稼働率

2006/9	2007/9
89.2%	87.1%

○室単価 (単位:円)

2006/9	2007/9	増減
16,170	16,993	823

京王プラザホテルの営業収益は、ほぼ前年同期並みとなっております。主力の新宿において、宿泊部門の客室稼働率は前年同期を下回ったものの、上質感を追求した客室「プラザプレミア」への改装効果などにより室単価が向上しております。

【 I - II . セグメント別の概況】



6. その他の実績

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減率
			%
ビル総合管理業	3,951	4,268	8.0
車両整備業	2,610	1,955	△ 25.1
建築・土木業	1,163	1,495	28.5
その他の	386	391	1.3
外部顧客に対する営業収益	8,111	8,110	△ 0.0
セグメント間取引	11,835	11,845	-
営業収益	19,947	19,956	0.0
営業利益	840	756	△ 10.0
減価償却費	175	225	28.2
資本的支出	563	746	32.5

16

営業収益はほぼ前年同期並みの199億円、営業利益は10.0%減の7億円となりました。

車両整備業で、特殊車両整備の大型契約が終了したことにより減収となりましたが、建築・土木業で大型物件の完成、ビル総合管理業で新規受注の増などにより増収となりました。

営業利益は、利益率の低下などにより減益となっております。

【I-III. 単体決算】



京王電鉄の損益計算書

〈単位:百万円〉

	2006/9	2007/9	増減額	増減率 %
営業収益	60,054	60,002	△ 51	△ 0.1
営業利益	17,466	17,857	390	2.2
経常利益	15,203	16,092	889	5.9
中間純利益	9,153	10,431	1,277	14.0

(営業収益) 鉄道事業 + 10億円
 付帯事業 △ 11億円 (不動産販売業 △ 18億円)
 (不動産賃貸業 + 7億円)

(営業利益) 鉄道事業 + 6億円
 付帯事業 △ 2億円 (不動産販売業 △ 5億円)
 (不動産賃貸業 + 2億円)

17

営業収益は0.1%減の600億円、営業利益は2.2%増の178億円となりました。

営業収益は、鉄道事業で輸送人員の増加により10億円の増となりました。付帯事業では、不動産販売業で18億円の減、不動産賃貸業で7億円の増などにより全体で11億円の減となりました。不動産販売業の減収要因は、前年同期の販売収入計上によるものです。

営業利益は、鉄道事業で6億円の増、付帯事業で2億円の減となりました。

経常利益は、支払利息の減などにより5.9%増の160億円、中間純利益は、減損損失の減少などにより14.0%増の104億円となりました。

Ⅱ . 2007年度の業績予想

【Ⅱ. 2007年度の業績予想】



1. 連結損益計算書

〈単位:億円〉

	2007/3実績	2008/3予想	増減額	増減率
連結営業収益	4,301	4,269	△ 32	△ 0.8 %
連結営業利益	422	391	△ 31	△ 7.6
連結経常利益	367	362	△ 5	△ 1.6
連結当期純利益	215	218	2	1.2
連結E B I T D A	713	698	△ 15	△ 2.2

	運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
(営業収益)	+ 20億円	+ 3億円	△ 36億円	△ 0億円	△ 22億円
(営業利益)	△ 3億円	+ 3億円	△ 16億円	△ 4億円	△ 10億円

- (注) 1. 連結E B I T D Aは、連結営業利益 + 減価償却費により算出している。
 2. セグメント別の営業収益、営業利益の増減額には、セグメント間取引を含む。

19

営業収益は0.8%減の4,269億円、営業利益は7.6%減の391億円を見込んでおります。

営業収益は、鉄道事業の輸送人員増を予想する運輸業で20億円の増を見込んでおりますが、不動産業では、中間期での減収に加え、前年下半期に定期借地権分譲マンション「トラスティア北野」の販売があったことなどにより、36億円の減収を見込んでおります。

営業利益は、鉄道事業で減価償却費が増加することなどにより運輸業で減益を見込んでいるほか、流通業を除くすべてのセグメントが減収の予想となっております。

経常利益は1.6%減の362億円を見込んでおりますが、当期純利益は、減損損失の減少を予想しており1.2%増の218億円となる見込みです。

E B I T D Aは、営業利益の減少により2.2%減の698億円を見込んでおります。

【Ⅱ. 2007年度の業績予想】



主な業績の変動要因

<運輸業－増収減益>

- （鉄道事業） 輸送人員の増 減価償却費の増

<流通業－増収増益>

- （ストア業、書籍販売業） 新店効果

<不動産業－減収減益>

- （不動産販売業） 前年に大型物件を販売

<レジャー・サービス業－減収減益>

- （ホテル業） 前年に大型宴会
- （広告代理業） 受注減

<その他－減収減益>

- （車両整備業、建築・土木業） 受注減

20

事業セグメント別の主な業績の変動要因です。

【Ⅱ. 2007年度の業績予想】

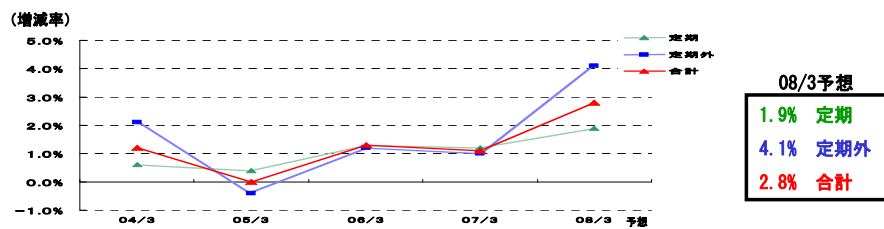


2. 運輸業の状況

<鉄道事業輸送人員>

	2007/3実績	2008/3予想	増減	増減率
輸 送 人 員	千人	千人	千人	%
定 期	355,858	362,481	6,623	1.9
（ 通 勤 ）	265,076	271,974	6,898	2.6
（ 通 学 ）	90,782	90,507	△ 275	△ 0.3
定 期 外	257,362	268,000	10,638	4.1
合 計	613,220	630,481	17,261	2.8

<対前年増減率の推移>



※ PASMО導入に伴う集計方法変更の影響分は控除していない。

21

定期で1.9%増、定期外で4.1%増、合計で2.8%増を見込んでおります。このうち、PASMОの導入に伴う集計方法の変更による影響分を1.4%と推定しており、輸送人員合計での実質的な増加率は1.4%と見込んでおります。

【Ⅱ. 2007年度の業績予想】



3. 流通業の状況

○京王百貨店（新宿店）の改装

2008年3月 5階紳士服フロアの改装



<京王百貨店（新宿店）>

○京王ストア「キッチンコート」4号店オープン

2007年12月 JR中央線 東中野駅前

日本閣観光㈱が建設中の
「ユニゾンタワー東中野」に出店



KITCHEN COURT
KEIO STORE

こだわり商品や上質な商品を取り扱う
本物志向のスーパー

桜上水店

神楽坂店

西調布店

3店舗が営業中



<京王ストア「キッチンコート」4号店>
・完成予想図（写真上）

22

下半期においては、京王百貨店で、2008年3月に5階紳士服フロアの改装を行い、収益力の向上をはかる予定です。

京王ストアでは、2007年12月に「キッチンコート」4号店をオープンさせる予定です。JR中央線東中野駅近くで日本閣観光株式会社が建設中の「ユニゾンタワー東中野」において、当社は商業施設の一部を賃借してのショッピングモールの開発を進めており、「キッチンコート」は、このショッピングモールの核テナントとして出店する予定です。

【Ⅱ. 2007年度の業績予想】



4. レジャー・サービス業の状況

○京王プラザホテル(新宿)の改装

2007年10月 上質感を追求した客室「プラザプレミア」への改装(本館38階、39階)

<プラザプレミアへの改装状況>

2005年度実施	2007年度実施	合計
84室	56室	140室 (総客室数 1,440室)



<京王プラザホテル(新宿)>
・「プラザプレミア」の室内
(写真上)

○京王プレッソイン3店舗の建替え



茅場町

五反田

池袋

2008年春 茅場町、五反田開業

2009年春 池袋開業

※総客室数 1,922室(池袋開業後)

<京王プレッソイン>
・休業中3店舗の完成予想図
(写真左)

23

京王プラザホテルの新宿では、上質感を追求した客室「プラザプレミア」への改装を継続的に行っており、下半期においても、すでに本館38階、39階の56室の改装を完了し、2007年10月から稼働しております。これにより、総客室数の約1割が「プラザプレミア」となっております。

京王プレッソインについては、休業中の3店舗について建替えを進めております。茅場町と五反田については2008年春に、池袋については2009年春に、それぞれオープンする予定です。これにより、既存の4店舗とあわせた総客室数は約2,000室となります。さらに、新規店舗の開業についても、引続き検討を進めてまいります。

Ⅲ. 対処すべき課題と取り組み

対処すべき課題

鉄道事業における安全性と利便性の向上

沿線価値の向上

グループ事業競争力の強化

経営体制の整備・強化

当社グループでは、2007年度の事業計画において、対処すべき課題として4つの項目を掲げております。この中でも特に重点的に取り組んでいるものが、「鉄道事業における安全性と利便性の向上」、「沿線価値の向上」の2つの項目です。

1. 鉄道事業における安全性と利便性の向上

<さらなる安全性の向上>

- ▶ 立体交差化の推進
- ▶ 自動列車制御装置（ATC）の導入
- ▶ 駅施設・高架橋などの保安度向上
- ▶ 総合高速検測車の導入
- ▶ 鉄道教習所改修による教育施設の充実
- ▶ 自然災害への対応強化（気象情報システムの増強 等）
- ▶ 自動体外式除細動器（AED）の整備

<バリアフリー化・サービスの向上>

- ▶ バリアフリー化の推進（自由通路も備えた橋上駅舎化 等）
- ▶ サービスの向上（新型ベンチの設置、ホーム待合室の設置 等）

<環境対策（省エネルギー化の推進）>

- ▶ 車両の省エネルギー化
- ▶ ホーム駅名看板の省電力化

当社グループでは、グループの企業理念である「信頼のトップブランド」を確立するために、その根幹である「安全の確保」への取り組みを継続的に進めており、とくに鉄道事業における「輸送の安全性」の確保について、最優先の取り組みとして位置づけております。

この方針に基づき、「さらなる安全性の向上」、「バリアフリー化・サービスの向上」、「環境対策」の3つを重点施策として、それぞれ具体的な施策を鋭意推進いたしております。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



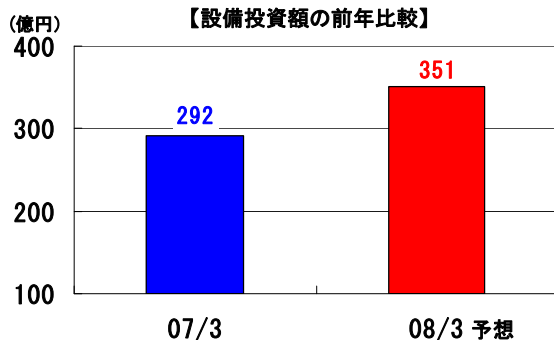
鉄道事業における安全性と利便性の向上

(鉄道事業設備投資)

(単位：億円)

項目	2007/3	2008/3予想	増減	増減率 (%)
安全性向上	190	274	84	44
バリアフリー化、サービス向上	91	66	△ 25	△ 27
環境対策等	11	10	△ 0	△ 1
計	292	351	58	20

【設備投資額の前年比較】



主な安全性向上投資

- ・ 調布駅付近連続立体交差事業
- ・ 自動列車制御装置 (ATC) 導入
- ・ 地下駅火災対策
- ・ 構造物耐震性向上

27

これらの施策を実施していく基礎となる、鉄道事業設備投資額について、2007年度は351億円を見込んでおります。

調布駅付近連続立体交差事業や自動列車制御装置など、とくに重点的に取り組んでいる安全性向上については274億円を見込んでおりますが、これは前期に比べ44%の増加になります。

鉄道事業における安全性と利便性の向上

➤ 立体交差化の推進

○ 調布駅付近連続立体交差事業

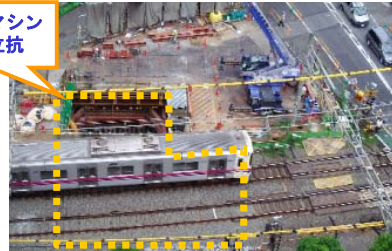
- ・京王線 柴崎駅～西調布駅間 約 2.8km、相模原線 調布駅～京王多摩川駅間 約 0.9kmを地下化し、18ヶ所の踏切を廃止
- ・2012年度の完成を目指す

(進捗状況)

線路下にトンネルを構築するための準備の推進

- ・シールドマシンの発進立坑の掘削・線路の仮受け
- ・調布駅仮橋上駅舎化に着手

シールドマシンの発進立坑



<調布駅付近連続立体交差事業>

- ・調布駅仮橋上駅舎化の現況 (写真左)
- ・シールドマシンの発進立坑の掘削工事の現況 (写真右上)
- ・製作予定のものと同型のシールドマシン (写真右下)



調布駅付近連続立体交差事業では、京王線の柴崎駅・西調布駅間、約2.8キロ、相模原線の調布駅・京王多摩川駅間、約0.9キロの区間を地下化し、18か所の踏切を廃止する計画です。

これにより、いわゆるボトルネック踏切による慢性的な交通渋滞が解消されるとともに、京王線と相模原線の平面交差が解消されることにより安全性が向上いたします。また、駅改良に伴うホームの拡幅、バリアフリー施設の整備等により、利便性が向上いたします。鋭意工事を進めており、全体の工事の完成は、2012年度を予定しております。

鉄道事業における安全性と利便性の向上

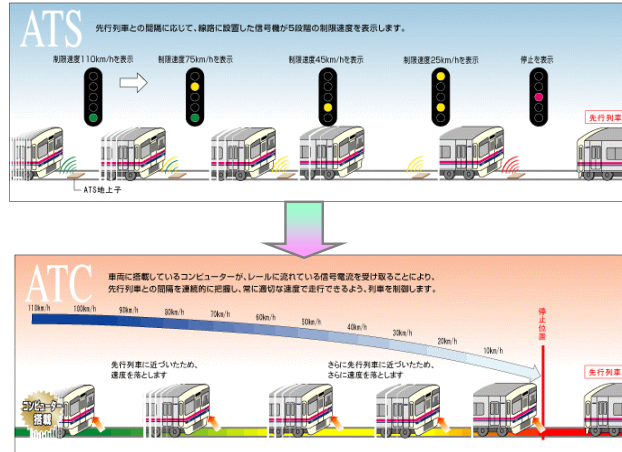
▶ 自動列車制御装置（ATC）の導入

- ・現在の自動列車停止装置（ATS）よりさらに安全性の高い信号システムを導入
- ・京王線・井の頭線ともに2010年度の完成を目指す

（進捗状況）

国土交通大臣への認可申請
地上装置設置のための準備工事

＜自動列車制御装置（ATC）＞
車両に搭載しているコンピューターがレールに流れている信号電流を受け取ることにより、**先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう列車を制御する装置**



他社における脱線事故などを契機として、2006年7月に鉄道技術基準が改正され、当社ではその基準に沿って、現在の自動列車停止装置よりさらに安全性の高い信号システムを導入いたします。

京王線では技術基準に定められた期限どおりに、井の頭線では期限を5年前倒して、全線で2010年度までに導入する予定です。

鉄道事業における安全性と利便性の向上

➤ 自然災害への対応強化

○ 気象情報システムの増強 (2007年10月より使用開始)

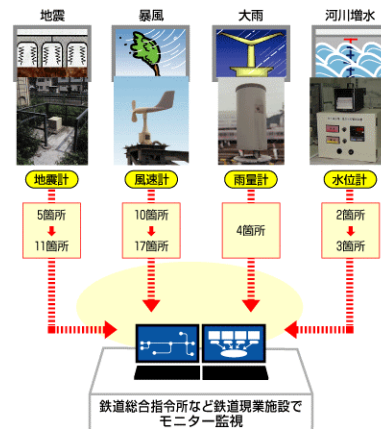
自然災害に早期に対応するため、地震計・風速計
雨量計・水位計を増設するとともに、観測データ
を鉄道総合指令所などで一元管理できるシステム
を導入

○ 早期地震警報システムの導入

(2007年10月より使用開始)

地震の初期微動（P波）を観測し、その後に来る
大きな揺れ（S波）の規模や到達時間を事前に知
らせる気象庁の「緊急地震速報」を活用した早期
地震警報システムを導入

- * 「緊急地震速報」を受信すると自動的に全列車の乗務員に無線で警報を送り、乗務員が安全な場所に
列車を停止させます。



自然災害への対応強化として、2007年10月から気象情報システムの増強
と早期地震警報システムの使用を開始しております。

気象情報システムについては、地震計などの計測機器を増設するとともに、
観測データを鉄道総合指令所などで一元管理できる機能を新たに導入いた
しました。これにより、沿線のきめ細かい気象情報に沿った運行管理を行っ
ております。

早期地震警報システムは、地震の規模や到達時間を事前に知らせる気象
庁の緊急地震速報を活用したシステムで、緊急地震速報を受信すると自動
的に無線で全列車の乗務員に警報を送り、乗務員は、ただちに安全な場所
に列車を停止させる措置をとります。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



鉄道事業における安全性と利便性の向上

▶ バリアフリー化の推進

○ 橋上駅舎化

- ・エレベーター・エスカレーターや南北の行き来ができる自由通路を備えた橋上駅舎への改良工事

(進捗状況)

西永福駅：人工地盤の設置工事（2007年度末完成予定）

桜上水駅：鉄骨架設工事の推進（2008年度完成予定）

原則として
2010年度までに
全駅の段差解消を
はかります。



《西永福駅》工事現況（写真右上）
完成予想図（写真右下）
《桜上水駅》工事現況（写真左）

31

当社では、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考えに基づきバリアフリー施設の整備を進めております。

エレベーター・エスカレーターや南北の行き来ができる自由通路を備えた橋上駅舎への改良工事を実施することなどにより、原則として2010年度までに、全駅の段差の解消をはかってまいります。

また、橋上駅舎化において自由通路を備えることは、踏切を渡らずに線路を横断できるといった点で街の機能の向上にも貢献いたします。

現在、西永福駅、桜上水駅において工事を進めているところでございます。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



鉄道事業における安全性と利便性の向上

▶バリアフリー化の推進・車両の省エネルギー化

- ・エネルギー効率の良いVVVFインバータ制御装置※
や次の停車駅などを液晶画面で案内する車内表示器、
ドアの開閉を音でお知らせするドアチャイムを搭載
した京王線9000系車両を30両新造
- ・既存車両の京王線7000系についてもVVVFインバー
タ制御装置への改造を28両で実施

2010年度までに、全車両のバリアフリー化、
省エネルギー化の完了を目指します。

※ <VVVFインバータ制御装置>

架線に流れる直流を交流に変換し、列車の加速力や速度に応じて
電圧や周波数を変化させながら交流モーターを動かす装置



9000系車両（写真上）

液晶画面の案内表示器（写真下）

2007年度は京王線の9000系車両を30両新造いたします。この9000系車両には、液晶画面を用いた案内表示器やドアチャイムなどのバリアフリー設備を装備しているほか、エネルギー効率の良いVVVFインバータ制御装置を搭載しております。

また、既存の京王線7000系車両の28両についても、VVVFインバータ制御装置への改造による省エネルギー化を進めるなど、2010年度までに全車両の省エネルギー化を完了する予定です。

車両のバリアフリー化についても引続き整備を進め、同じく2010年度までに全車両のバリアフリー化を完了する予定です。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



鉄道事業における安全性と利便性の向上

- 鉄道教習所の改修による教育施設の充実
 - ・実際の現場と同様の設備を用いて知識や技能を習得するための施設を充実
 - ・それらを活用した新たなプログラムによる社員教育を開始



- ・ホーム訓練室 (写真左)
- ・CAI教室 (写真中央)
- ・駅業務訓練室 (写真右上)
- ・信号訓練室 (写真右下)

33

当社では、輸送の安全のための取り組みを継続して向上させる「運輸安全マネジメント」を推進しております。その一環として、鉄道教習所を改修し、ホームや自動改札など実際の現場と同様の設備を用いて知識や技術を習得するための教育施設を充実するとともに、それらを活用した新たなプログラムによる社員教育を開始しております。

鉄道事業における安全性と利便性の向上

▶自動体外式除細動器（AED）の整備

- ・京王線・井の頭線69駅全てに自動体外式除細動器（AED）の整備を完了（2007年5月）



▶サービスの向上（新型ベンチの設置）

- ・座面の高さや形状が異なる新型ベンチを導入するとともに、ベンチ数を増加（今後も順次設置予定）



<新型ベンチ>

- ・手前から「通常型」「高座型」
- ・立ち上がる際などにご利用いただけるよう手すりを設置
- ・材料の一部に使用済みバスケットを使用

34

安心・快適に駅をご利用いただくために、さまざまな取り組みを進めておりますが、2007年度中間期では、自動体外式除細動器（AED）、の整備、新型ベンチの設置を行いました。

AEDについては、2007年5月に京王線・井の頭線の69駅すべてに設置を完了いたしました。

新型ベンチは、座面の高さや形状が異なるユニバーサルデザインのベンチで、2007年度から設置しております。今後も、順次設置してまいります。

2. 沿線価値の向上 「住んでもらえる・選んでもらえる沿線づくり」

<駅の利便性向上>

▶ 駅に直結する商業施設の拡充

<沿線における優良な住居系賃貸物件の供給>

<お客様の潜在的ニーズに応えるサービスの提供>

▶ 「生活サポートサービス」の開始

▶ 沿線コミュニティサイト「街はび」の開設

▶ 住みかえ推進事業への取り組み

<沿線への子育て世代の流入促進>

▶ 子育て支援事業への参入

▶ 「子育て支援マンション」の建設

<「PASMO」とグループカードの連携>

▶ 「PASMO」と京王パスポートカードの各種サービスの展開

▶ 「PASMO」電子マネーの導入準備

対処すべき課題のもう一つの柱として、沿線価値の向上に取り組んでおります。

今後の人口構成予測などからみて、今後、子育て世代が減少し、団塊世代の高齢化が進みます。今後も各世代の方々にバランスよく住み続けていただくことが、地域の活力を維持する上で重要であると考えております。

京王沿線が「住んでもらえる・選んでもらえる沿線」となるため、子育て世代の流入をはかり、高齢者が生き生きと暮らせるための施策を行っていく必要があります。

そのため、赤字で記載した「駅の利便性の向上」、「沿線における優良な住居系賃貸物件の供給」、「お客様のニーズに応えるサービスの提供」、「沿線への子育て世代の流入促進」、「PASMOとグループカードの連携」などの施策に取り組んでまいります。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】

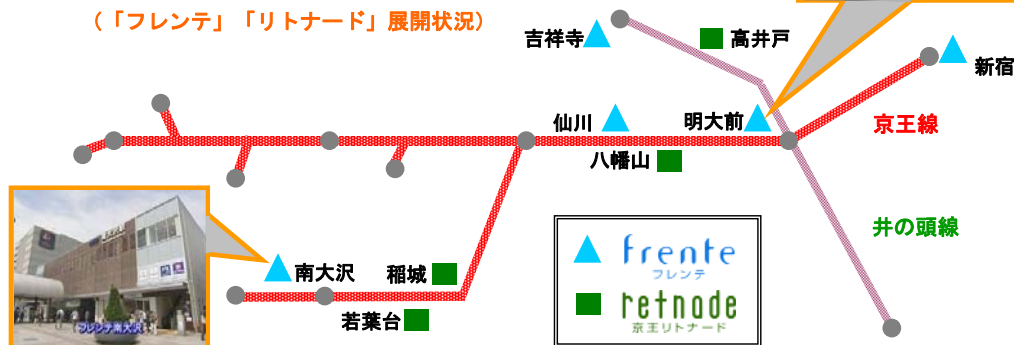


沿線価値の向上 <駅の利便性向上>

▶ 駅に直結する商業施設の拡充

○ 京王沿線において複合商業施設「フレンテ」「リトナード」を展開

- ・フレンテ明大前 2007年5月 オープン
 - ・フレンテ南大沢 2007年7月 オープン
- 「啓文堂書店」「ベーカリー ルパ」などグループ店舗も出店



36

当社では、駅を利用される方や周辺にお住まいの方の利便性向上を目的に、駅に直結する商業施設の拡充を進めております。沿線において、ファッション性の高いテナントを中心とする「フレンテ」と、日常生活にご利用いただけるテナントで構成される「リトナード」を展開しております。

2007年度中間期においては、5月にフレンテ明大前を、7月にフレンテ南大沢をそれぞれオープンしております。これらの施設には、「啓文堂書店」や「ベーカリー ルパ」などのグループ店舗も出店しております。

「フレンテ明大前」、「フレンテ南大沢」を加え、現在、フレンテは5か所に、リトナードは4か所に展開しております。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



沿線価値の向上 <沿線における優良な住居系賃貸物件の供給>

○ 賃貸デザイナーズマンション 「Hi-ROOMS明大前」の建設

2008年初夏 完成予定

Hi-ROOMS		
桜上水	2004年8月	完成
哲学堂	2006年3月	完成
方南町	2007年1月	完成

<Hi-ROOMS>
完成イメージ
(写真はHi-ROOMS方南町)



○ 京王八王子元本郷ビルの建設

有料老人ホーム（85戸）として賃貸

運営：積和サポートシステム(株)

2007年末 完成予定

<京王八王子元本郷ビル>
完成予想図（写真右）



37

賃貸デザイナーズマンション「Hi-ROOMS」を展開しております。すでに、桜上水、哲学堂、方南町の3物件が稼働しておりますが、現在は明大前の建設を進めており、2008年初夏に完成の予定です。

また、京王八王子元本郷ビルの建設を進めております。こちらは2007年末の完成を予定しており、85戸規模の有料老人ホームとしてグループ外の運営会社に賃貸いたします。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】

KEIO

沿線価値の向上 <お客様の潜在的ニーズに応えるサービスの提供>

▶生活サポートサービスの開始

- 高幡不動地区において生活サポートサービス「京王ほっとネットワーク」の運営を開始

2007年 3月 宅配サービス、窓口サービス開始
2007年11月 住まいのサポートサービス開始予定



<京王ほっとネットワーク>
正面（写真左）
カウンターおよびスタッフ（写真右）

38

沿線にお住まいの方の生活利便性の向上を目指して、高幡不動地区をモデル地区とした生活サポートサービスのトライアルを開始しております。

暮らしに役立つサービスを提供するため、2007年3月に京王高幡ショッピングセンター内に「京王ほっとネットワーク」を開設いたしました。ショッピングセンター内でのお買上げ商品の宅配サービスなどを通じて、お客様との間に信頼関係を築き、潜在的なニーズを収集してまいります。

また、地元の信頼できる事業者とのネットワークを構築し、当社がお客様に紹介することで、幅広く質の高いサービスを提供し、自治体、住民、地元事業者など、地域全体でメリットを共有してまいります。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



沿線価値の向上 <沿線への子育て世代の流入促進>

▶子育て支援事業への参入

- 高幡不動「子育て支援マンション」の建設
(2008年3月竣工予定)
- (株)京王子育てサポートの設立 (2007年4月)



(保育所「京王キッズプラッツ」の開設予定)

保育所名	開設時期	開設場所
京王キッズプラッツ多摩川	2008年3月	京王フローラルガーデンアンジェの隣地に建設
京王キッズプラッツ高幡	2008年4月	子育て支援マンションに併設

※ともに東京都認証保育所申請予定



子育て支援マンション完成予想図 (写真上)

京王の子育て支援事業ホームページ (写真下) URL: www.kosodate.net/

子育て支援事業は、子育て世代が住みやすく暮らしやすい環境を整えることで、「子育てしやすい沿線」としてのイメージを定着させ、将来にわたって、子育て世代が流入してくる沿線として活力を維持していくことを目的としております。

具体的な事業としては、まず、高幡不動駅前において「子育て支援マンション」の建設を進めております。竣工は2008年3月の予定です。

また、子育て支援事業を実施する上で、よりきめ細やかにお客様のニーズに応えるため、新会社、株式会社京王子育てサポートを、2007年4月に設立いたしました。この会社では、沿線での保育施設の運営や子育て関連サービスの提供を行ってまいります。2008年3月には、京王フローラルガーデンアンジェの隣地に保育所「京王キッズプラッツ多摩川」を、2008年4月には、子育て支援マンションに併設の「京王キッズプラッツ高幡」を、それぞれ開設する予定です。

なお、これらの事業をより多くの方に知っていただくため、2008年10月に子育て支援事業のホームページを開設いたしました。

【Ⅲ－Ⅱ．課題への取り組み】



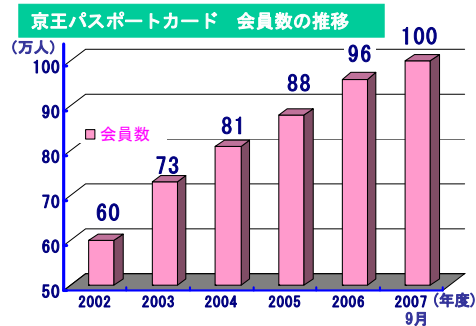
沿線価値の向上 <「PASMO」とグループカードの連携>

➤ 「PASMO」と京王パスポートカードの各種サービスの展開

2007年3月 「PASMOオートチャージサービス」スタート

2007年3月 「乗りものポイントサービス」スタート

2007年9月 「京王パスポートカード」の会員数 100万人 突破



➤ 「PASMO」電子マネーの導入準備

駅売店やミニコンビニ(K-Shop)などの小売店、
駅構内自販機を中心に対応端末機器、システムを設置

サービス開始は2008年3月(予定)

40

当社では、PASMOと京王パスポートカードの連携による各種サービスを展開しております。2007年3月のPASMO導入にあわせて、オートチャージサービスをスタートさせたほか、鉄道・バスのご利用などに応じてポイントがたまる、乗りものポイントサービスもスタートさせました。

京王パスポートカードについては、2002年にグループ共通ポイントサービスを開始するなど、これまでも積極的な会員勧誘を行ってまいりましたが、PASMOとの連携による効果もあり、2007年9月には会員数が100万人を突破いたしました。

また、PASMO電子マネーの導入準備を進めており、駅売店やミニコンビニのK-Shop、駅構内の自販機などに対して、端末機器やシステムの設置を進めてまいります。なお、サービス開始は2008年3月の予定です。



このプレゼンテーション資料には、現時点の将来に関する前提・見通しに基づく予測が含まれております。実際の業績は、様々な要因により記載の予想数値と異なる可能性があります。

【連絡先】

京王電鉄株式会社

総合企画本部 経理部

久保 田口

PHONE : 042-337-3135

FAX : 042-374-9810